

平成18年版名簿発行後の入退会者

(平成18年12月3日現在)

新入会者

入会日	氏名	勤務先	勤務先住所
平成18年6月20日	鈴木 理華	聖路加国際病院	東京都中央区
平成18年7月2日	吉田 理恵	済生会横浜市南部病院	横浜市港南区
平成18年7月2日	末木 博彦	昭和大学藤が丘病院	横浜市青葉区
平成18年7月2日	大林 寛人	大林医院	小田原市
平成18年7月24日	北川 太郎	神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町
平成18年7月30日	惣角 卓矢	横浜西口スカイクリニック	横浜市西区
平成18年8月24日	大塚 知子	ともしこ皮膚科	川崎市多摩区
平成18年9月19日	間山真美子		東京都世田谷区(自宅)
平成18年9月29日	清 佳浩	帝京大学医学部附属溝口病院	川崎市高津区
平成18年12月3日	林 裕嘉	平塚市民病院	平塚市
平成18年12月3日	安岡 英美	済生会横浜市南部病院	横浜市港南区
平成18年12月3日	岡島 光也	林間皮膚科クリニック	大和市

退会者

退会日	氏名
平成18年6月19日	岩田 充
平成18年7月6日	安藤 巖夫
平成18年7月6日	森下 宣明
平成18年7月24日	橋爪 鈴男
平成18年7月26日	原 上
平成18年7月26日	富士田 毅
平成18年8月30日	松岡 俊介
平成18年12月3日	伊東 慶悟
平成18年12月3日	福田 知雄



編集 後記

●県の医会に顔を出すようになり早20年。かつて中野先生、加藤先生達からは若手といわれていましたが、気が付いたら委員会を任されるようになっていました。気持ちと見た目は若いつもりですが確実に歳をとっているのですねえ。さて編集の仕事は優秀な委員の先生に任せておけばOK、委員長の仕事は広告費集めと原稿の催促です。おかげで原稿遅刻常習者のブラックリストができてきました。知りたい人にはそっと教えてあげますよ。(川口博史)

●9月の昼休み、「さあ午後の仕事だ!」と起き上がった瞬間、左足に激痛が。野球のバットを杖代わりに近くの整形へ。MRIの結果は2箇所腰椎ヘルニア。運がいいのか悪いのか職場で動けなくなったため東京の自宅には戻れず、通勤なしで仕事は可。完全復活を目指しレスラー紹介のトレーナーの下へ日参。状態もよくなり、年末仕事納めの日、レセプトチェックも終了し、さて家族とスキーへ出かけようと荷物を持って立ち上がった瞬間、悪夢が再び。子供たちの冷たい視線を浴びながら、久しぶりにゆったりと家で正月を迎えました。(相川洋介)

●この度編集委員に加えて頂きました。普段作文や編集とは全く縁のない生活ですので、久しぶりに文章を練ろうとすると、おしゃべりと違い雰囲気伝わらない、言葉が出てこない、文章が乱れる事実に直面し慌てております。『皮膚病診療』1月号の「Let's enjoy 皮膚科専門医試験」の報告座談会の中の、「誤字に気づかない皮膚科医は……」の木花先生のお言葉は思い当たるだけに耳が痛い。今回の投稿も校正したはずの文章にも誤字をご指摘頂き赤面です。せめて誤字脱字に気づけるようになりたいです。ちなみに一応専門医試験を受験した世代です。(岡 史子)

●年末、北海道へスキーに行ったが、例年なら-10度以下のなかを凍えながらスキーをするのに、今年は、スキー場でも雨が降るほど暖かった。テレビを見ているとニューヨークでは、Tシャツで公園を散歩している映像が流れており、また、暖冬のため雪不足で、各地のスキー場は困っているが、スキー場近くのゴルフ場は、雪がないため年末年始も営業すると新聞に載っていました。単なる暖冬なのか、地球温暖化の影響なのか心配です。(小野秀貴)

●私は格闘技ファンで馬場、猪木のプロレスから始まり、その後格闘技を観続けています。ここ数年、格闘技ブームで昨年の大晦日もいくつかのテレビ局で放送されました。これは嬉しいことなのですが格闘技ファンからすると、「最強の素人」ボビーや「元横綱」曙、「俳優」金子賢の試合は見世物的でどうでもいいものなのです。もっとプライドとプライドがぶつかり合う、格闘技ファンがワクワクするような試合を見せてもらいたいものです。(山本 修)

●新年早々、兄妹間・夫婦間のバラバラ殺人事件など出てきて、昨年末のNHK紅白のDJ OZMAによる浮かれ気分などすっ飛んでしまいました。近年研修医制度が変わった途端、過疎県の大学の卒業生は都会に移動し、医師の地域偏在も顕著になりました。「大学時代は暢気な田舎で過ごし、卒後は都会で腕を磨く」……こう考える人も確かに結構いるでしょう。(宮本秀明)

●昨年7月より編集委員会のお仕事をおおせつかりました、けいゆう病院の河原です。どうぞよろしく願います。10月からは自分の病院でも皮膚科の責任者となり、表面には現れない様々な仕事があることに、新鮮な驚きの毎日です。編集委員会の仕事は、高校、大学時代に同人誌を作った頃の事を思い出しながら(比較の対象にしないように!?) 楽しく参加させていただいています。会員の先生方に愛される“神皮”作りに、微力ながらお役に立てれば幸いです。(河原由恵)

●先日、横浜市医師会の賀詞交換会に顔を出しました。日医の唐澤祥人会長が来賓として挨拶をされ、日医はみんな一生懸命やっているのに、評判はもう一つ。そこで今年は、①広報活動をしっかりやって、自らの活動を会員に訴えていく、②様々な事項に迅速に対応していく、③会員を増やして、組織を強化する、と言っていました。色々な医会に当てはまる言葉だと聞いていました。私も頑張ります。編集後記はしめきりを過ぎてしまいましたが。(浅井俊弥)

●今回の不二家の騒ぎ、学生時代「ベコ」と呼ばれていた私としては、実家なくなるようで複雑な気持ちでみています。納豆がいいと報道されれば、それがウソでも日本中のスーパーで納豆の在庫がなくなり、不二家が賞味期限切れの材料を使ったとなれば、不二家のものはチョコもキャンディーも駄目になってしまう、今の日本中の風潮にちょっとうんざりしてしまいます。賞味期限なんていい加減と思って全然気にしていない私としては、もっと自分で判断したら!とテレビに向かって怒っています。(馬場直子)

神 皮 〈第14号〉

2007年3月4日発行

発行 神奈川県皮膚科医会

発行人 栗原誠一

〒254-0043 平塚市紅谷町14-24

電話 0463-21-3031

制作 かまくら春秋社

■表紙のことば

今年も母、故・宮本ゆりの刺繍を採用して下さり、有難うございます。母は前回初めて自分の作品が表紙になり、見舞い客が訪れる度にうれしそうに見せていましたが、入院36日目の平成18年5月2日に病院のベッドで息を引き取りました。3年前に夫(小生の父)に死別してからかなり寂しい様子でしたが、享年79歳の幸せな人生でした。欲を言えば今年の表紙も見せてやりたかったです。(宮本秀明)